

PHD LETTER

104

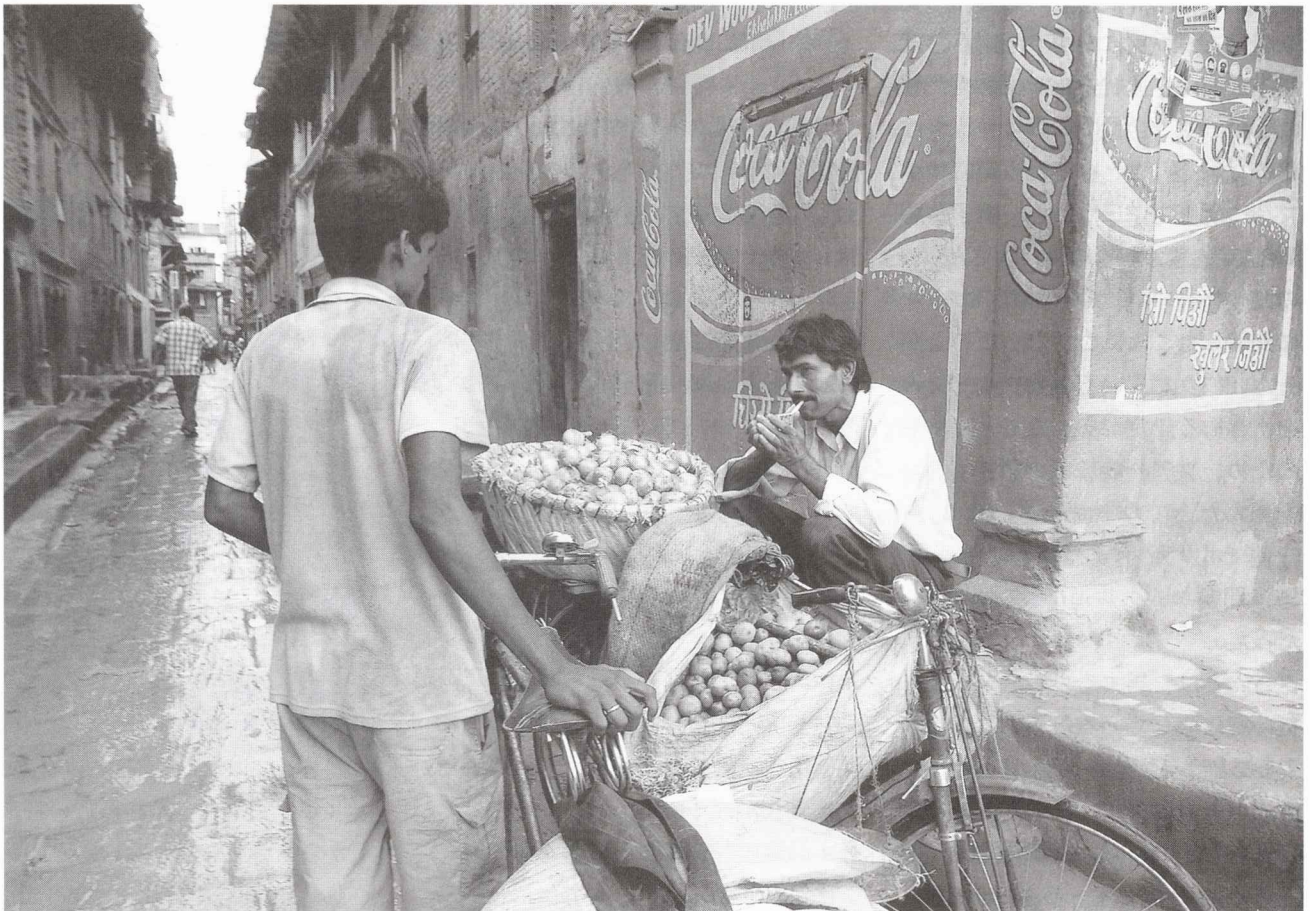
2007.9

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

- 東西南北・ヒマラヤの見えなかったネパールで
- 研修先体験記「はらっぱ保育所とティダさん」
- 同じ買うなら、使うなら！「足立醸造の醤油」

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL：http://www.kisweb.ne.jp/phd
定価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



ネパール パタン 撮影：FUJINO T.

雨期のパタンの古い街角。
自転車には玉ねぎとじゃが芋が満載。
雨が降っていたので商売は今ひとつ。
一服つけて、でなおそうか。

東西南北 問題解決 取組日記

ヒマラヤの見えなかったネパールで

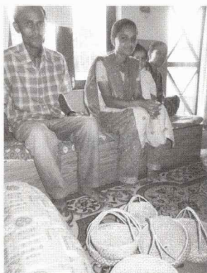


雨のため陸路でポカラへ

7月下旬、1月に続いてスタディツアーとして7人の参加者とネパールにでかけた。この時期はまだ雨季が明けておらず、午後から夕方に雨が降ることはあっても、ほぼ毎日雨だった。

カトマンズに到着後、その足で国内線を乗り継いでポカラに向かう予定も、荒天で空港が使えず運航中止。振替えた翌朝の便も飛ばず、全員でのポカラ行きはあきらめた。そのことを宿から電話でポカラで待つ研修生に伝えると、調子が悪いと聞いていた第2期研修生のラダさん(83年)のおつれあいが、われわれがカトマンズに到着したころに亡くなったことがわかった。彼女が率いる編物グループの製品を引き取る予定があったこととお悔やみのため、ツアー参加者を急きょ別コースを組んだ上でカトマンズに残し、1泊2日、車でポカラへ。雨は降っていたが、幸い道は問題なく、片道6時間弱の行き帰りだった。

ラダさんとは、属するカーストの決まりに従い喪に服しているため、じっくり話をすることはできなかった。かわりに、ラダさんとともにグループの活動をすすめる研修生サビトリ・シュレスタさん(97年)、サビトリ・バストーラさん(98年)が対応してくれた。



サビトリさんの作ったカゴを前に実家の家族と

特にバストーラさんは、最近、仲間の女

性とともな妻ワラ細工による製品づくりを取組んでおり、サンプルを持ち帰ることにした。グループで作ったセーター、ベスト、ジャケット、帽子は大きな袋にふたつ。秋以降に各地のパザールで、皆さんにご披露します。カレンの草木染手織物と並ぶPHDのフェアトレードの品物だ。

第1期生の活動へのあらたな支援

今回の訪問の一番の目的は、第1期研修生(82年)のバト・ピスタさんが帰国してから地域で展開してきた活動のフォローアップの具体策を検討することにあった。これまでも彼の活動については何度か報告をしてきているが、カトマンズから北東に60kmのカブレ郡CSS(サマ・セワ・サムハ/社会奉仕会)という名のNGOを組織し、医療、

保健衛生、農林業、教育などの分野で村人に働きかけている。バトさんはネパールの家族計画協会の職員をしていたときに第1期PHD研修生として選ばれ82~83年に来日した。帰国後復職して、地方の担当区域シンドゥバルチョーク郡で活動していた。家族計画協会が扱う分野は限定されており、もっと幅広い分野での地域にあわせた活動が必要との思いを強くしていった。90年の国政の民主化に伴い、国の制度が変わったことを機に協会を辞し、自らの団体SSSを立ち上げ、前述のような住民への働きかけを行ってきた。対象は低カーストの人々が多く住む地域である。特に近年は、PHD協会の活動の強力な支援団体のひとつの篠山ナマステ会の皆さんによるガハテ村の学校建設、

運営支援がなされている。篠山ナマステ会はバトさんが日本で研修した折に長期に受入れをされた故渡辺省悟さんの発案でできた会であり、校舎建設のみならず、先生を雇う費用もだし、設立5年後に運営を地域と地方政府に移管するまで支援する計画だった。計画は順調にすすみ、02年に学校は始まった。すでに予定の5年が経過しているが、そこへの支援の継続とともに、今後はこの学校をもとに盛り上がった生活向上への住民の意欲を、別の形でも応援できないかと検討が



これからの計画を熱心に語り合う村人たち

はじまっていた。昨年、バトさんから近い将来この地域から研修生を送れないかとの希望が出され、PHD協会と篠山ナマステ会との3者で協議がなされていた。今回はその計画を実際に村人に説明をし、早くて2年先の09年春の招へいに向けて準備をすすめることで基本的な合意ができた。

私がかわる、村がかわる

説明会の中で学校の運営委員の村の女性から「これまで私たちは、朝、水を汲んで、家事をして、牛の世話をすることだけで一日が経っていました。学校ができて、私の世界が変わりました」と発言があった。こういった変化をさらに後押

できればと研修生招へいが提案されたことが想像できた。

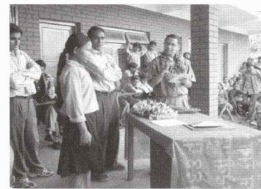


学校ができてからの変化を語るトゥラサさん

この打ち合わせの前日にはSSSの事務所から歩いて1時間半のセティディビ小学校を訪ね、現役の生徒と卒業生、親たちから大歓迎をうけた。行事の中で卒業生の一人の少女の感謝の言葉も「この村に学校ができたことで、子どもたちが勉強できるようになっただけでなく、親にも影響が及び、村全体がかわろうとしています」と、思うところは同じようだ。



小学校で大歓迎をうけるツアー参加者



学校ができたことへの感謝を述べる卒業生

こんな感想だけでなく、笑える話も聞かせてもらった。「学校でトイレを使うことの意味を子どもたちが教わり、実際に使うようになった。ところが年配の人は昔からの習慣で、外で用を足

すことがある。それを見つけた子どもがいけない行為発見とばかりに笛を吹くことがあるんです」と。

周囲の変化もはじまっている

こうして帰国した研修生の働きが村を少しずついい方向にかえていっていることがわかり、大変うれしく思った。一方で生活環境も例えば道路が少しずつ整備され、これまで歩くしかなかった村の移動が車で可能になってきている。今回特に目についたのは、カトマンズへ建設用の砂利を運ぶトラックだった。さらに奥の水源にダムをつくり、トンネルを通して、水をカトマンズに送る計画も外国の援助を得て進行中とのことだった。伝統的な生活に好ましい変化をもたらす工夫とあわせて、自らの意志とは関係なく急激に変化する環境にふりまわされない対応も必要になってきていると感じた。



未舗装の道路をとばす砂利満載のトラック

教育もたらすもの

村での滞在2日目は一日中けっこの雨で、予定の村内まわりができなかったため、バトさんからゆっくり話をきくことができた。この地域でも初等教育はそれなりにうけることができるようになってきているが、次の段階として、貧しい村の人が自立していくことにつながる高等教育への道を用意したいとの抱負を語ってくれた。

今回、村人への説明と打合せには、弁護士さんの通訳をお願いした。彼は愛媛大学、名古屋大学大学院でも学んだことがあり、現在は本業のかた

わら、いくつもの日本のNGOの手伝いもしてくれている。彼によれば、一部の層での教育の充実が、ネパールの優秀な人材の海外への流失を生んでしまっているという。昔からネパールではグルカ兵と呼ばれる英国軍の傭兵への参加が有名であったが、最近はそのだけでなく中近東への出稼ぎの他、主として英国、ニュージーランド、米国といった英語圏の国への留学やその後とどまって就職、移住というケースが増えてきているという。単純労働の出稼ぎは期間限定で戻ってくるが、欧米への場合には事情が異なる。自国の政情が不安定なこともあり、先行に明るい見通しが感じられない中で、優秀な人材が外へ出て戻ってこなくなってしまうという。フィリピンでも医師や看護師が米国等に出て行ってしまふことをきいているが、この小さな山の国での貴重な優秀な人材の流出。本来なら教育を受けることができる人が身につけたことを自分の住む地域に活かすことが望ましいのだろう。個人、家族の幸せが優先することが悪いわけではないが、この状況はとても難しいものを感じさせる。

少しでも家計に余裕がある家庭は子どもを英語で学ぶ私立の学校にやり、英語を身につけさせる。その上で留学の機会を見つけ、卒業後はその地で就職というのがめざす流れである。意欲と優秀さがなければじまらぬが、それ以前に相応の経済力が必要である。日本でも格差が話題になるが、ここにはより大きな差があり、それはさらに大きな差を作っていく。バトさんが考える村人への高等教育の必要は理解できるが、それが村に地域に還元されないとかえって逆効果になりかねない。何につながる教育なのか。難しい話である。

総理事代行 藤野達也

25期生研修生レポート

ヘルマイエニさん
女性・22歳・インドネシア

6月6日～19日
太陽保育園（養父市／栄養）
滞在 室見千尋さん宅

乳幼児の栄養について学ぶため、栄養士さんに付いて給食やおやつ作りを手伝いました。毎日の忙しい作業も鼻歌交じりで楽しめた様子です。

6月26日～29日
小林嘉子さん（篠山市／洋裁）
滞在 山岸永子さん宅

本格的にミシンを触るのは今回が初めて。まずは洋裁の楽しさを覚えるため、靴や簡単なブラウスとスカート、ズボンを作ってみました。技術的にはまだまだ練習が必要ですが、「熱心で気合が入っていて、教えがいがある。」と先生の感想です。

7月2日～12日
瀬加保育所（市川町／保育）
滞在 森藤真由美さん宅、牛尾武博さん宅

保育を通じて乳幼児の健康管理や衛生面のことについて学びました。保育園での研修も2カ所目。生活に慣れると自ら進んで作業ができ、とても意欲的だと先生よりお褒めの言葉を頂きました。何にでも前向きなヘルマさん。ピアノで七夕の歌の練習もしました。

7月24日～26日
高橋武子さん（三木市／洋裁）
滞在 福永就子さん宅



高橋さん宅でスカート製作中

ミシンの使い方にも少し慣れる必要があったため、まずは直線の多い靴を製作。続いて一枚の型紙から同じデザインのロングスカートを生地を変えて2枚作りました。ファスナーの縫い付けと手縫いの作業はもう少し練習が必要です。

7月27日～30日
高木育代さん（神戸市西区／洋裁）
今回は自分の好みでブラウスとワンピースを自らデザインし、インドネシア風に仕上げました。最後はお化粧をし、花を片手にモデル気分で写真撮影。今後の課題は製図です。

8月2日～3日、6日
竹野一実さん（三木市／洋裁）
滞在 福永就子さん宅、光田和子さん宅
ロックミシンの扱いも上達し、ミシンでの作業はもう1人で大丈夫。作品一つ一つに自分のアイデアを取り入れ、自分の好みに仕上げるなど、洋裁の楽しさを覚えた様子。今回はパッチワークの教室も覗かせていただき、沢山の方との交流もありました。これからは手縫いの基礎も学ぶ予定です。

チャユーさん
男性・37歳・タイ

6月5日～18日
藤井誠次さん
（神戸市北区／野菜・養鶏）

今年度も農業研修の一回目をお願いし、研修生が日本の農業に慣れるための機会としました。タイとは大きく違い、早朝から夕方まで忙しく生活リズムに、少し戸惑った様子でした。期間中、地元の小学生の田植え体験にも一緒に参加し、子供たちとの交流も楽しみました。

6月22日～7月3日
渋谷富喜男さん・広子さん
（神戸市西区／野菜・ボカシ肥）

あいにくの空模様が続いた12日間でしたが、牛糞や米ぬかなどを使った有機肥料の作り方を学び、タイでの施肥の仕方と比較をしたり、トマト栽培にも違いを見つけたりと、いろいろ学べた研修でした。

また、近所に自生する竹を使って、タイの村で使われている牛の首につける鈴やネズミ捕りの罠も作って見せてくれ、楽器演奏が得意なだけでなく手先も器用なことが伺えました。



タイの村でもなすは作れます

7月7日～13日
中野宗嗣さん・美恵子さん
（丹波市／野菜・米・酪農）

一週間の研修でしたが、合鴨農法や中野さんが行う有畜複合経営を経験しました。

7月23日～8月2日
寺田まさふみさん
（豊岡市／野菜・米・農産物加工）

農作業の合間を縫って、土の成分のことなど有機農業にとって大切なことを色々勉強できました。また、手軽に

出来る加工の一つとして、トマトを使ってソースやホールトマトを作りました。さらに、立ち寄った地元の観光センターでは南瓜のジャムを見つけました。村でも多く栽培されているので、良いヒントになりました。

ティダさん
女性・35歳・ビルマ（ミャンマー）

6月6日～12日
小前芳彦さん・達子さん
（篠山市／野菜・米・ボカシ肥）
村では実家の畑も手伝っていることから、まずは農業研修で肩慣らし。有機肥料の作り方について学びました。

6月14日～21日
吉田吉彦さん・八重子さん
（丹波市／野菜・米・養豚・養鶏）
玉ねぎの栽培に興味津々。ビルマに種を持って帰って栽培してみたい、と意欲的です。油かすを肥料として利用できることや施肥の方法にもビルマと日本で違いがあることを学びました。

6月28日～7月6日、7月17日～18日
はらっば保育所（西宮市／保育）
滞在 前田公美さん宅

いよいよ専門分野の研修です。子供との接し方にも慣れており、人見知りをする年齢の子供たちも直ぐになつてくれました。七夕も子供たちと一緒に楽しみました。



七夕の飾りつけと一緒に

7月25日～8月3日
ささやま保育園（篠山市／保育）
滞在 岩下富子さん宅

「子供好きな性格が表れていました。何でも意欲的に取り組み、保育士の動きを見て、自分で行動を起こすことが出来ました。職員とも馴染み、なんだか前からいる人の方でした。」と園長先生。

研修先体験記



梅雨の間の青空が広がる7月17日、ティダさんと共にはらっば保育所を訪問しました。ティダさんは今回で2回目（6月28日から7月6日、7月17日から18日）。子どもたちも先生もティダさんの顔が見えると温かい声で「ティダさん」と名前を呼んでくれました。

はらっば保育所とPHDの出合い

はらっば保育所とPHDの関わりは農業研

修でお世話になっている丹波市の吉田吉彦さんの野菜を保育所で購入しているところからつながりました。

1999年にタイの研修生ボーディさん、翌年にはバブア・ニューギニアのリンダさんがお世話になりました。シコンさん（01年）はこの春から小学校の先生をしています。インドネシアからミミさん（02年）、エリさん（03年）、アフリタさん（04年）は保育園で子どもたちと接しています。はらっば保育所での学びが彼女たちの今の活動を支えているのだと思います。

はらっばって？

子どもを真中に、大人もつながっていき、子どもがいきいきとすごせる保育所にしたいという想いから1979年にスタートしたはらっば保育所。社会での人と人との関係の大切さや自然環境、添加物や農薬を使っていない食べ物で子どもを育てたい

という想いが根底にあります。

こんちゃん？

6月末に新しい建物に移った保育所は、檜の香の漂う風通しの良い、心地よい空間です。保育所内では、スタッフ9名に4カ月から小学校就学前までの31人の子どもが音楽に合わせて踊っています。ティダさんが「こんちゃん」と呼んでいたのは実は前田先生でした。「先生と生徒という関係ではなく、もっと横並びの同じ位置でつながっていきたいので、ここでは先生という言葉は使っていない」と、こんちゃん。なるほど。先生というよりも大きな家族や親せき一同が集まっているという懐かしいような、いつまでも違和感なく滞在できる雰囲気は不思議です。

乳児担当のティダさん

ティダさんは、8時半頃から子どもの身の回りの世話をし、その後公園。お昼は子どもの飲み物の介添えや後片付け。お昼寝の後おやつ準備をし、自由遊び。6月末に新しい建物への引っ越しがあったので、ティダさんが保育所を出るのは19時頃。ビルマでも保育所で働いているので、ミルクの飲ませ方やおしめの変え方など手慣れている、主に乳幼児の世話をしています。

3週間必要

「3週間程あればもっとたくさん伝えることができるのだけれど。」1週間でも子どもやスタッフとの関係を作り、子どもも研修生も慣れるのに2週間は必要。昨年のスーさんの研修では最初2週間、秋に1週間の合計3週間で効果的に研修ができたそうです。秋に2度目に来た時にはリラックスして質問ができていたよう

です。

文化の違いに子どもは？

「子どもたちは、ティダさんの存在をそのまま受けとめ、声の調子や触れ合いの中からティダさんのやさしさを感じていました。肌の色やことばの違いなんて本当に小さなことで、一緒に毎日過ごし、共に笑ったり泣いたりしながら伝えること、伝え合うことがたくさんあると実感した」と鳥谷先生は話されます。それもティダさんの姿勢や取り組みが子ども達に伝わっているのかもしれない。ビルマでは研修生ムームーさん（93年）を手伝って村の幼稚園で働いています。ビルマに戻り、はらっば保育所での活動をどのように活かしていくのか非常に楽しみです。

林業体験合宿をとおして考えた



7月21日、22日の2日間、林業体験合宿に参加しました。

今回の内容は下草刈りでしたが、草といっても雑草ばかりでなく、茂みのような小さな木を刈っていく作業でした。山の斜面が急勾配なこともあり、重労働というのが率直な感想です。

日本の現在の問題

いまの日本は、昔に比べ、生活の中に木を取り入れることが少なくなり、加えて、市場に出回っている木材といえば、日本のものよりも安く手に入るから輸入

がほとんどです。実際、林業は非常に重労働なので、それなくして木材が安く手に入るのであれば、輸入の方が効率的という考え方もあります。しかし、それが日本に悪影響を及ぼしているのです。それは林業関係者だけの問題ではありません。私たちの生活にも影響しているのです。身近なところで言えば、花粉症の問題です。これは、40〜50年前に木材用にと大量に植えたスギが、間伐などの手入れがされないまま放置され、その中で木が生き残ろうと大量の花粉を発生していることから引き起こされている問題なのです。

私たちにできることは？

では、このような日本の現状に対して、私たちは何をしたらよいのでしょうか？ ひとつには、日本の人が日本の木を使うことだと思います。林業が仕事として成り立つためには売れることが必要です。

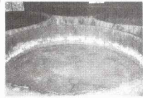
産業として成り立てば、今のように山が放置されるということがなくなると期待されます。

何でもかんでも安いから、効率的だからといって輸入するのではなく、国内の木を工夫して生活に取り入れていくことが、私たちに求められていることではないでしょうか。それは、昔の人が行ってきたことを、現代の私たちが受け継いだらよいのです。

いまの日本は、木を育て、その木を使い、また木を育て、その木を使い、といった持続可能な循環ができなくなっていることに問題があるのだと考えます。この先、「木を育てる」ことのできる日本人はどれだけになってしまうのでしょうか？ PHD協会では、林業体験秋の部として「枝打ち」作業を11月に予定しています。これを機に、みなさんも「木を育てる」ことに目覚めてみませんか？

横山卓見 (神戸市・会社員)

同じ買うなら、使うなら！



No.9 足立醸造の醤油



八つぁん(以下、八) ご隠居さん、今回は醤油だっかね。

ご隠居さん(以下、隠) 04年に研修生がお世話になった兵庫県多可郡の足立醸造さんのことかい、八つぁん。100年以上の伝統を今に伝える数少ない老舗だよ。

八 かけ醤油って一番人気の商品を試したんですが、だしの旨味がきいてるんですね。塩辛さもどぎつなくて、まるやかさがあって。

隠 地元産の黒大豆を使った醤油や柚子ぼん酢醤油なんてのもあって、種類が豊富だね。最近じゃ、消費者の要

望に応えて、安心・安全な有機大豆を使った醤油もあるよ。

八 ところで、最近顔を見ねえ熊んとも醤油屋ですが、この味は簡単には出せねえって言ってやした。足立さんとこの醤油はどこが違うんですかね？ 隠 熊さんは組合に入ってたね？醤油のもとになる麹(こうじ)を作る設備は費用がかかるから、小さな醤油屋はみな組合で作った同じ麹を使った醤油の原液を使うのさ。だから独自の味を出すのは難しいよ。醤油は麹が命だからね。

八 足立さんはすべて自前で設備を用意してるんですか。職人氣質を感じやすね。

隠 麹ができたなら木樽に移して発酵させる。

八 実は特別にその様子を見せてもらいましたが、まるで沸騰させているかのようにボコボコいってやしたよ。微生物ってのはすごいねえ。

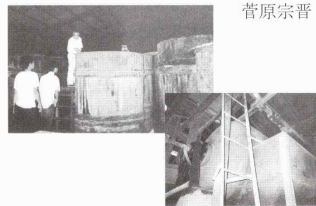
隠 1年半かけてじっくり発酵した後、压榨・加熱殺菌してようやく完成だ。手間隙かかっているね。でも、だか

らこそあの深い味が出るんだよ。大手メーカーは効率重視で、たった半年の発酵で出荷するってんだから。

八 日本食は醤油に支えられてるってのに、近頃は本物の醤油が減っちゃったなあ。あつら消費者は安さだけでなく、いいもの、安全なものを求め、生産者を支えていかねえと。いけねえ、台詞が説明的すぎた。隠 足立さんも言っておられたよ。消費者の声が食文化を守る、ってね。

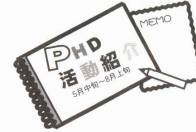
八 至極名言ですぞね、ご隠居さん！

菅原宗晋



お問い合わせ先

足立醸造株式会社
兵庫県多可郡多可町加美区西脇81-1
TEL 0795-35-0031
URL <http://www.adachi-jozo.co.jp/>



活気あふれる！

生き生きとした方々が集うバザー。5月13日、神戸市のしあわせの村での「神戸市シルバーカレッジボランティア大会」に参加しました。踊りあり、合唱ありと様々なプログラムの中、大勢の人々が賑わいました。また、7月28日の「しあわせの村夏祭り」にも出店させて頂き、縁日の楽しさを味わいながら、PHDを紹介しました。

高校生とPHD

6月26日、大阪府立松原高等学校から10名の高校生が「産業社会と人間・社会体験」として、また7月19日には兵庫県立御影高等学校から「国際理解と開発教育」の一環として10名の高校生が来所しました。アジアは近いようでほとんど知らなかったとの感想に加え、エアコンをできるだけ我慢しよう、ファイルを大切に使うなど日頃事務所で心掛けていたことが彼らにとっては驚きだったようです。それぞれ2時間という小さな出会いでしたが、今後もつながっていきたいと思いました。



女性の役割を学ぶ

7月14日、兵庫県東海市連合婦人会の交流会がありました。30名の方々が参加。婦人会とは、女性が今のよう社会に出ているという発言をすることが難しかった時代に、女性が組織化して社会に提案していこうという取り組みから始まったとの説明に、タイのカレンの女性たちの活動が重なり、国を越えての女性のがんばりを感じました。



研修出発を前に

6月2日、3名の研修生のお披露目を兼ねて神戸市内で交流会を開催。日本語はまだ勉強中で、十分ではありませんが、3人3様抱負を語りました。昨年のスタディツアー参加者からも研修生の出身地の様子や感想も聞くことができました。

今期研修生のおひろめ

恒例の指導者会を16名の出席のもと、5月23日に兵庫県西脇市で行いました。現場研修に出る前の研修生が、それぞれ希望する研修内容を含めてあいさつをし、出身地の様子を写真で紹介しました。まだ拙い日本語ながら、指導者と話す研修生の姿が見られ、期待と強い意気込みを感じる会となりました。

カレンの布の加工のヒントを得た！

5月27日神戸生活創造センターでの「生活創造フェスティバル in 神戸2007」に参加しました。カレンの草木染めの布との再会を楽しみにしておられる方が多く、お話が弾みます。この布を材料に小物入れを作っていらっしゃる方からヒントを頂きました。12月のタイ訪問時に村の織り手の皆さんに伝えます。

あなたの「平和」とは？

7月7日、コープこうべ第3地区平和を願うついで「平和と健康を担う人づくり〜アジア・南太平洋との交流を通して〜」がコープこうべ生活センターで行われました。170名の方々がPHDの話を聞き、ワークショップに参加し、それぞれの「平和」について意見を出し合いました。中でも戦争を経験された方のご意見は切実で心を打たれました。また、スライドでアジアや南太平洋の村の様子を紹介すると、皆さん興味深く見入っていました。



親子の集いに

7月1日の日曜日の午後、神戸市須磨寺の柴田三千子さんのお宅で、「アジアの文化に親しむ」と題したイベントが開かれました。お話の読み聞かせや二胡の演奏などとともにPHDの活動紹介をさせていただきました。親子20名ほどの参加があり、アジアの文化という側面からPHDの活動を紹介できた一日でした。

NHK効果バツグン

もう20年近く応援するカレンの草木染め手織り布の在庫を「PHD事務所に眠らせておくのはもったいない！」という事で初めての割引セール「もったいないセール」を8月3、4日、事務所で行いました。NHK神戸放送局でお知らせをして頂いたところ、多くの問い合わせを頂き、これまでPHDをご存知なかった方々が沢山来られました。これからの新しい支援にもつながりそうです。

シンプルな生活に一着

オーガニックコットン使用
長袖Tシャツ



Peace, Health & Human Development
THE PHD FOUNDATION
<http://www.kisweb.ne.jp/phd>

色は紺の1色。ロゴのプリントは、
白に加えオレンジ、緑の3色。
XS,S,M,Lの4サイズで¥2,800。

半袖Tシャツと同じオーガニックコットンを使用し、さり気なくロゴを後ろの襟元にプリントしました。

1枚で着てもよし、インナーにしてもよし。1年中シンプルに着まわして頂けます。どうぞご愛用下さい。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2007年 5月	39件	¥ 449,947
6月	311件	¥2,648,249
7月	346件	¥2,938,298
696件		¥6,036,494

以上の通り、多くの皆様よりご浄財を頂戴しました。特に会費のお願いの時期の中、皆様からのあたたかいお応えに、心よりお礼を申し上げます。今後とも引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

◆東日本・西日本研修旅行のご案内

今年も研修生の社会学習、全国の皆さまへの活動報告などを目的に、研修旅行を行います。各地で交流会を予定していますので、お近くの方は是非会いに来て下さい。

東日本 (11月中旬～下旬)

愛知-静岡-神奈川-東京-山梨-長野-岐阜
西日本 (1月中旬)
宮崎-鹿児島-熊本-大分-福岡-山口-広島-愛媛-岡山

◆第21期関西NGO大学開講

PHD協会も加わる関西NGO協議会の主催。9月から2月まで、1ヶ月に1回、土日に開講している1泊2日の市民向けの連続講座です。参加者主体の講座で、国際社会がかかえる課題に取り組むNGOの活動に関わる担い手を育てます。詳しくはHPを。URL <http://Ndai.net>

◆年末年始のタイ・スタディツアー

この年末年始も北タイ、カレンの村を訪れます。帰国研修生、草木染めの布を織る女性グループとも交流します。村人の家にホームステイし、村のクリスマス、新年も体験します。

日程 12月23日～2008年1月3日
金額 約20万円



2006年タイ・スタディツアー

◆特定公益増進法人継続認可が下りました

前号では更新申請中とお伝えしてました特定公益増進法人の認可を、7月11日に受けることができました。現在使用の郵便局の払込取扱票の裏面の説明文は変更前のままです。在庫がなくなるまでは、ご容赦願います。内容は右欄のとおり前回と変更はありません。

編・集・後・記

編集を担当して2度目のレター。今回は新しい企画があります。神戸からの情報発信だけでなく、地域、会員の皆さまからの情報発信の場にもしたいと考えています。今後にもご期待下さい。

制作協力：菅原宗晋 増本一朗
松本"顧問"直樹 坂井時和

〇月×日のPHD協会

職員 佐々木 郵便局、銀行まわりは公用車のママチャリで。元町走行中、負荷に耐えかねて破裂音とともにパンク。周囲もただ本人が一番びっくり。

職員 高垣 事務所に蜂が迷いこみ大騒ぎ。捕まえて、コトを終息させると思いきや、2人の年上の後輩におしつけ別の騒ぎに。時折、幼稚園のPHD。

職員 藤野 ネパール出張で専門学校の授業を休講。埋めの授業はお土産なしではすまされない。用意したシエルバのチーズ薫製は概ね不評でがっかり。

職員 川原 人前でPHDの説明をするのも大事な役目。まだ場数不足で抜けたり、かんだり。Peace、Human Developmentって、Healthはどこへ？

職員 三輪 例年夏は食欲減退で体重も3-5kg減。でも今年は「同じ買うなら」欄で紹介の、寺ちゃん納豆に足立醤油をかけた冷やっつが強い味方。

(足のサイズが大きい順)

当会は特定公益増進法人です。
ご寄附に対する免税の特典

当法人は特定公益増進法人としての認定を得ていますので、ご寄附に対する下記のような特典があります。

寄附者が個人の場合

寄付金合計額(所得金額の30%未満) マイナス5千円が寄付金控除額(所得総額から控除できる額)となります。
(例) 500万円の所得の人が1万5千円を寄附されると、1万円が寄付金控除額となり499万円の所得に対して課税されます。

寄附者が法人の場合

次の(A)と(B)のどちらか低い額が損金参入額になります。
(A) { (資本金×2.5/1000) + (所得額×2.5/100) } ×0.5
(B) 寄附金の合計

※資本金10億で、その年の所得が3億円、1年決算の会社の寄附金の損金参入額は、1,000万円未満です。(一般では500万円)

郵便振替口座

01110-6-29688
財団法人ピー・エイチ・ディー協会

PHD会員制度のご案内

終身維持会費: 1口10万円(任意の口数)
PHD会員: 年額 1口5千円(任意の口数)
友の会会員: 年額 1口千円以上任意の額